

令和2年度

山梨における 教員育成推進事業 成果パンフレット

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会
—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—

初任者研修等における
山梨大学教育学部教員の派遣

Index

教育学部長挨拶 p.1

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 pp.2～3

初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣 p.4

令和3年4月 山梨大学教育学部



山梨大学 教育学部長
古家 貴雄

日頃より山梨大学教育学部並びに大学院教育学研究科教育実践創成専攻(教職大学院)の教育に対し、格別のご厚情をいただきまして誠にありがとうございます。

本学部は、平成29年3月に山梨県教育委員会と「連携協力に関する覚書」を締結させていただき、山梨県教育委員会及び山梨県総合教育センターとの連携協力のもと、現代の学校や地域における教育課題の解決に意欲的に取り組む、質の高い教員養成と現職教員研修の充実を目指して諸種の活動を継続してきています。

その一環として、令和2年度も、山梨における教員育成推進事業として「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—」と「初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣」の2つの事業を実施し、好評の内に終了しました。前者については、コロナ禍の中、山梨県の全地域で合計4回実施され、「すぐに算数の授業でOPPを活用した」、「校内の研修で、還流を行った」等、実践に応用されるケースが多くありました。また後者につ

いては、教育学部の教員24名が全県の初任者研修に参加し、主に授業の指導助言を行い、「本研修によって身近な疑問を解決でき、学びも多かった」、「気づかされた点が様々あり、充実した研究協議になった」などの声が初任の先生方よりありました。

本事業は、山梨県教育委員会、山梨県総合教育センター、及び県内教育事務所の皆様の多大なご尽力によって達成されましたが、山梨大学教育学部は今後も地域に根ざした教員育成を推進していく所存です。皆様のさらなるご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。



子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会

— OPPシートによる学習・指導と評価の一体化 —



事業概要

OUTLINE

- 富士・東部地区 令和2年 8月 6日 / 南都留合同庁舎
- 中北地区 令和2年 8月 7日 / 北巨摩合同庁舎
- 峡東地区 令和2年11月12日 / 山梨市役所
- 峡南地区 令和2年11月26日 / 身延地区公民館下山分館

講師

堀 哲夫
(山梨大学 元理事・副学長)

辻本 昭彦
(法政大学生命科学部生命機能学科 准教授)

山梨県総合教育センターとの共催により、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—」を開催しました。

本研修会では、より多くの先生方が参加できるように、教育事務所ごと県内4地区で同じ内容の講座を次の日程で実施しました。

わかりやすく楽しい
研修会でした！



峡南地区会場

多くの先生方が参加

本研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知するとともに、各地区の教育事務所にもご協力いただきました。

今年度はコロナ禍の中、人数を絞っての開催となりましたが、若手からベテランまで合計89名の先生方に参加していただきました。

内容

CONTENTS

今年は密を避けるためグループワーク等の活動はできませんでしたが、学習・指導と評価の一体化により、授業方法の改善につながるOPPA(1枚ポートフォリオ評価)論について次のような内容で研修を行いました。

- ◆ OP PA理論についての解説
- ◆ OP PAに基づいた授業実践事例の報告
- ◆ 「ダイヤモンドランキング」を使い、評価の本質について考える活動等

また、OPPシートの効果を実感してもらうために、受講者が研修を受ける前と後に、実際にOPPシートへ「授業についての考え方」を記入し、自身の変容・成長について振り返る活動を行いました。

OPPAとは？

OPPAとは、One Page Portfolio Assessmentの略で、「一枚ポートフォリオ評価法」と呼ばれるものです。学習者が一枚のシート(OPPシート)の中に学習の成果を学習履歴として記録し、学習の全体を学習者自身に自己評価させる方法です。シートは、次の部分に分かれています。

- ① 単元開始前と終了後に記入する「本質的な問い」
(教師がこの単元を通して最もつかませたい内容を問いの形で示したもの)
- ② 授業の中で学習者が一番大事だと思ったことや自分が考えた授業のタイトルなどを授業ごとに記入する部分

OPPAの特徴は、次のように子どもの成長と教師の成長とを繋げるところにあります。

- ◆ 学習者にとっては、自分の学習の成果を振り返り、自分の成長をつかむことができるもの
- ◆ 教師にとっては、一人一人の子どもの学びの状況を把握し、毎回の授業を振り返り、授業の改善につなげることができるもの

ダイヤモンドランキングとは？

様々なテーマについて、10個の命題をカード等に記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型にランキング(順位付け)して、その根拠等を整理し、その結果について参加者相互が意見交換・討議する活動です。

討議のプロセスでは、一つの結果を導き出すということではなく、他者の考えを理解するとともに、コンセンサスを得ることに関する能力をトレーニングする観点で実施します。





成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

研修会で各自が記入したOPPシートによると、ほとんどの参加者が、自分の授業に対する考え方が変容していると記述していました。

◆ 研修会での OPP シートより

学習において子供たち自身が自分のことを知り、これからどうしていかとうことを子供たち自身で考えることが重要であることに気づいた。

子供が何を考えているのかを本当に拾い上げてはいなかった。ほとんど一方的に見て褒めて終わりにしていた。双方向での実践で一人一人を見とり、指導していくことが必要だと思った。

考えるという一方通行の授業では学びにならないということに気づいた。学習者が自分で考え、言葉にできるような授業をつくっていくことが大切だと感じた。

若い世代の先生方に今日の内容を伝えていくことが自分の責務であると痛感しました。

評価は何のためにあるのか、どんな時にすると効果的なのかを学ぶことができました。受講前に比べてより具体的に私がすべきことが分かった気がします。

評価に対する考え方が変わりました。評価はしなければならぬものではなく一人一人の成長のためには必要不可欠であると感じました。

◆ 山梨県総合教育センターの事後アンケートより

すぐに算数の授業でOPPシートを活用した。2年生のかけ算で取り組んだ結果、子供たちの学びの変容などが把握でき良かった。

3年生社会科「地域の安全を守る（消防署・警察署）」の単元で実践した。

運動会への取り組みや体育の授業（ミニハードルと幅跳び）で活用した。

管理職として、若手の授業実践への指導・助言に役立ちたい。

校内研究の一方策として、取り組んでいきたい。

理科や体育の授業で実際に活用してみた。子どもたちの反応もよく、シートを通して子どもたちが考えることができていたと思う。

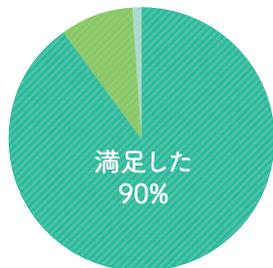
今年度は、国語・体育・算数の学習で使うことができた。いろいろな教科で、応用できるのも魅力。

校内の研修で、還流を行った。

拠点校指導教員をしているため、初任者への指導に生かしていこうと考えている。

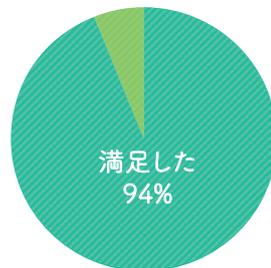
受講前の期待と比べてどうでしたか

満足した……90%
どちらでもない……9%
満足しなかった……1%



役立つ内容があったか

満足した……94%
どちらでもない……6%
満足しなかった……0%



本研修会を通して、評価の本質についてとらえなおし、授業に対する考え方が変容した教員が多かったです。また、研修後に実際に授業等でOPPシートが活用されたことは大きな成果と考えます。

今年度は、密を避けるため研修の中で、演習等を行うことができませんでしたが、今後、さらに内容を充実させ研修を継続し、OPPAの理解を深めるとともに、OPPシートの活用を広めていくことで、多くの教員の授業力向上に役立てていただけるような研修にしていきたいと思っております。





初任者研修等における 山梨大学教育学部教員の派遣



事業概要

OUTLINE

山梨県教育委員会との連携のもと、山梨県教育委員会・市町村教育委員会が拠点校等で行っている初任者研修等へ、本学部の教員を指導・助言者として派遣する事業を、県内4教育事務所・山梨県総合教育センターの全面的な協力を得て次のとおり行いました。

派遣期間・回数

令和2年9月11日(金)～令和3年1月25日(月) 計24回

派遣人数

延べ24人

派遣校種

小学校9校、中学校10校、高等学校5校

内容

「初任者による研究授業」の参観とその後の「授業研究会」での指導・助言
(小学校:国語・算数・道徳、中学校:社会・数学・理科・英語・家庭・音楽・道徳、
高等学校:地理・数学・生物・保健体育・英語)



初任者の声

実験・観察を行う際は目的を明確にすることや、意欲的に取り組ませるためには身近な疑問を解決することなどを学ぶことができました。

問い返いややさりの答問を工夫することで、児童の様々な考えや反応を拾い、つなげていくことが大切だと思いました。今後の授業実践に活かしていきたいです。

「わらい」と「めあて」が一体化していなかったため二つの活動を生かす「めあて」にならなかったことを指摘されました。自分だけでは分からなかった点をご指導いただけてありがたかったです。

課題に対する足場づくりが大切だと思いました。つくり過ぎれば考える機会が減り、逆にあまりつくりすぎると、課題解決に向かえないため、生徒の実態に合わせて足場をつくるのが重要だと思いました。

教科書に掲載されている内容を扱うだけでなく、他教科に関することへつなげていく多面的なつながりを意識して授業を展開することで、教科横断的な学習が進められるということがわかりました。

授業を見ていただくことの大切さを感じました。実際に指導主事、山梨大学の先生、同期の先生に授業を見てもらい、気づかされた点が様々あり、充実した研究協議となりました。定期的にはこのような機会をつくらせたいと思いました。

派遣教員の声

初任者へのサポート体制、子どもの学が意欲を引き出す学校全体の取り組みなどを学校長から伺うことができ、私自身とても勉強になりました。

学校教員の方々とは異なる視点による指導助言が、先生方や初任者ご本人も気づいていなかった素晴らしさをお伝えできるよい機会となったと思います。

今後ともこのような場があれば、ぜひ参加させていただき、山梨県の教育・研修等の質の向上に貢献できれば幸いです。

現場の先生方の工夫を勉強させていただく貴重な機会であると感じています。今後このような機会があれば大変ありがたく存じます。

授業において様々な工夫をしている姿を見て、こちらも学ぶことが多くありました。また、授業を展開する中での難しさを感じた点も伺うことができ、大学教育にも反映させられる点があると感じました。

自分のかつてのゼミ生であり、立派な教員になって教壇に立っている姿を見て、とてもうれしく感じました。かつて指導した学生の初任者研修に参加できて感無量でした。機会があればぜひまた参加したいと思います。

大学教員が学校に出向き、従来とは違う視点からの指導・助言をすることで、研修をより深める一助になったと思います。また、派遣された教員にとっても、学校の様子を知る良い機会であり、今後の教員養成にも資するものと考えます。

今後、大学教員のよりよい関わり方について、アンケート等を参考にしながら、さらに研究を深め、改善しながら事業の充実を図ってまいります。



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



地域の中核
世界の人材

お問い合わせ先

山梨大学教育学域支援課

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
TEL.055-220-8102 FAX.055-220-8791

教育学部
イメージキャラクター

梨子ちゃん & 大福くん

